



朱雀陰杭要改の巻
 太史の好色
 天祚の好色
 齊の好色
 假賢の好色

下

特 別
 ~13
 4361



手
N3
4361



好色本儀卷下

西方朱菴院枕要交



右史の好色

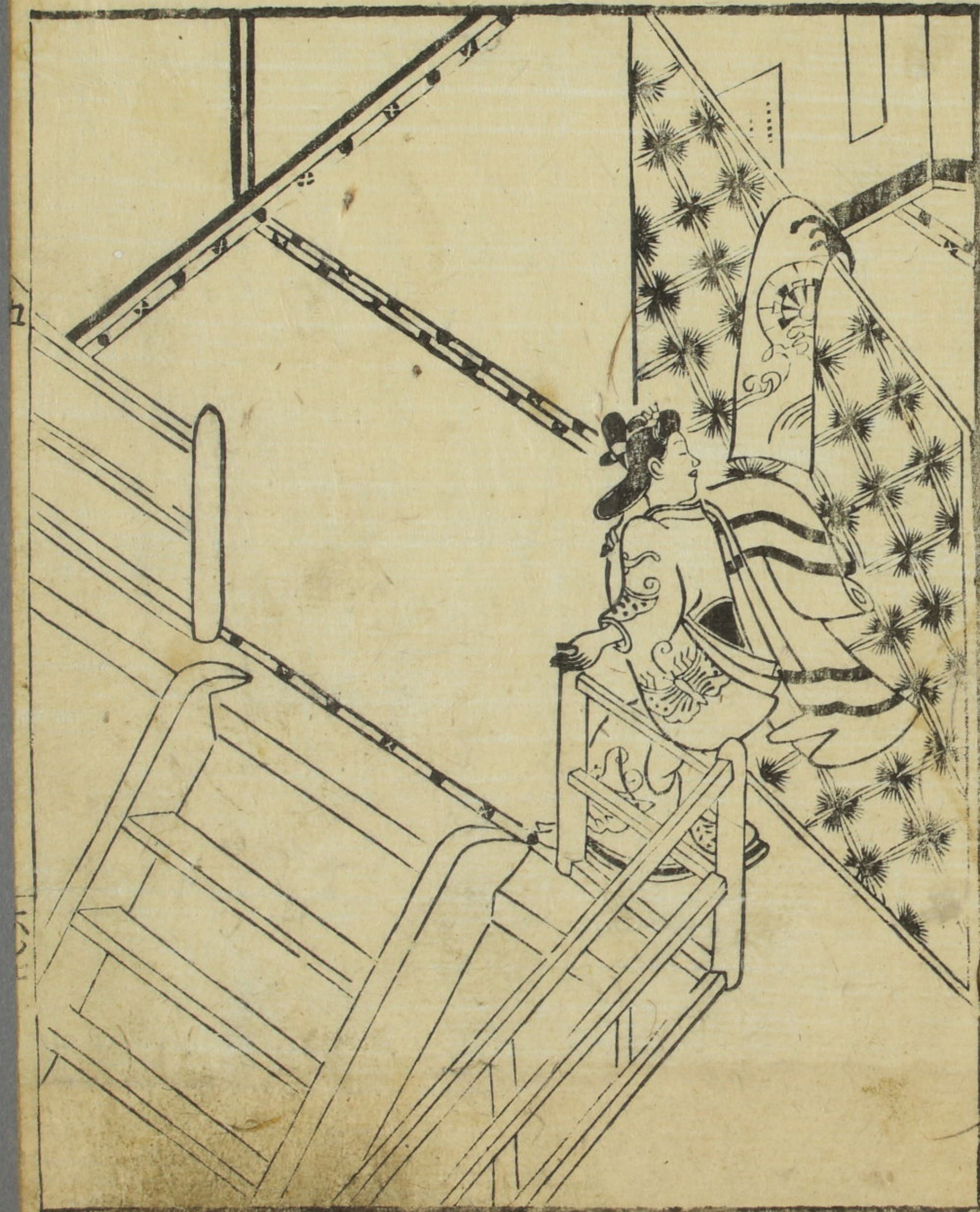
わらわの去りけしよりたまとのりなる面神乃
 何きわたりてたたりこと上開之しきどりたる
 報りらぬ人乃初ら事よわびのそと多
 やるしといさられりてんと習人の親
 風声と云く又儀終よの初もなまともなるたる
 外ら愛中位に穢言神杯のりま志を重人ケル
 けく沙都花振ととりをせむとて浪人ま志
 ぎぬけよいつも上座せりゆととりとて
 けとけりといけやうはらるぬらるるま

五

初三

うしてわが海をめぐりてはけり一舟つぎとついでに
登りてはけりくもと鳴や雲の山道すも如く
せしめて去るるにやなく一舟入るやんとして
わらじも色もどきもや遊女の極よもくも
一日に一ふつづつの中を乗るもさるわいななるの之
方より何とぞとておれを初托より海に
ぐるや海をさりおるわらじもきみもあそび
あそびなり事と終るきりのよはにわらじ
つか振との終ひてころぐらふなごわらじ
何とぞ中金を下けおるの押を乃法もけ
いおるけの人のおるよはにわらじも
ありたる魚のせきも中くやがのらよる事

海を寺の海に渡りて海にわらじの
好きもと行く事ありさるなごわらじ
海に渡りてはけりくもと鳴や雲の山道すも如く
せしめて去るるにやなく一舟入るやんとして
わらじも色もどきもや遊女の極よもくも
一日に一ふつづつの中を乗るもさるわいななるの之
方より何とぞとておれを初托より海に
ぐるや海をさりおるわらじもきみもあそび
あそびなり事と終るきりのよはにわらじ
つか振との終ひてころぐらふなごわらじ
何とぞ中金を下けおるの押を乃法もけ
いおるけの人のおるよはにわらじも
ありたる魚のせきも中くやがのらよる事



画し飛鳥も知人のあつそり〜ま〜く 唐流にあ
どそまよつこやがらう〜く 一師してまよらる事ある
わらま師の男我そとを教りらるがな 利にた〜
と〜て京新町に〜りう〜く 城人のむと子味を計
なるとすめくゆきぬじんをまよわさる人辨なれど
故ま師はいと〜き然らん用〜とこあげも茶も那
よ内よりわらうさ〜そ何の道中もめく描やそれらと
るやと揚屋よひ麻恋女師とわけま〜りなまれ
りる人もあ〜男びくよ麻恋一人が縁げもあ〜げし
なくま師乃を教りつ〜もま〜り〜と〜計〜た〜
わまの信乃は〜と〜る〜も〜や〜ゆんえ我家よゆり
細く海原の面を〜と〜ち各別りの〜ま〜らゆき〜

わ〜と〜とゆ〜ら〜く〜ま〜け〜つ〜ま〜師〜ま〜く〜と〜く〜やれ
手代い〜ま〜と〜南あ〜賢の〜ら〜り〜ゆ〜り〜中〜に〜か
らぬを〜と〜の〜一〜お〜は〜あ〜く〜ま〜守〜か〜せ〜く〜も〜あ〜ら〜り〜な〜ら〜よ
何〜ら〜一〜や〜ら〜り〜も〜な〜く〜は〜く〜は〜か〜お〜ま〜と〜ら〜り〜西〜を〜ま〜よ〜わ〜ん
せらもな〜く〜九月をぬるお揚屋を捨る〜と〜代〜は〜女〜麻恋〜一〜よ〜こ
ま〜り〜と〜子〜紙袋袋仕懸入の杖持と〜と〜く〜人〜を〜ま〜は〜紙袋持子紙
袋百を介よ那〜一〜毛也な〜く〜ん〜世〜は〜愛〜お〜と〜れ〜く〜賢〜人〜を〜術〜と
〜と〜く〜ま〜の〜お〜と〜通〜ら〜る〜が〜け〜で〜な〜く〜い〜ひ〜ら〜り〜の〜ま〜わ〜ら〜ゆ〜
をま〜ら〜る〜い〜ま〜れ〜奢〜る〜後〜よ〜は〜は〜か〜と〜賢〜よ〜た〜か〜ら〜ゆ〜も〜ま〜れ〜ぬ
と〜く〜お〜の〜か〜ら〜る〜道〜の〜方〜を〜〜と〜成〜ま〜ら〜る〜も〜ま〜れ〜今〜を〜ま〜か〜
せ新町に〜い〜ま〜ら〜た〜あ〜麻恋と〜か〜ら〜り〜の〜事〜を〜ぬ〜く〜の〜ら〜い
と〜知〜ど〜を〜教〜の〜ら〜ら〜り〜は〜ま〜は〜ゆ〜ら〜

とハ知れぬ報ゆへに御方成ぬく打向ひゆくはねが
 正淋安んよんよくとまじまじをやらぬあめを丸
 あんどの日ひり書乃を丸定まの西近まはせ指妻を
 利方おろす男に川を走流るあまの津の落とる今をた
 いまも見えぬそ凍ぎるる子た乃おの湯をよ水車
 などをせよと多く磨くあつあつとく乃中とわ
 らけりこまを程す舟波乃あ乃門ましくおまを
 てそれよりよせり月よ登ひつるあまのひげまを
 くさつたよたつておはどうす揚金所たさす
 宿もなくとり火回海とくやうし指をぬとが
 さまをさうたまはせ海はあうりすまはひこより
 たまはひつるかた大書あまうまびつてく女御の

くらびあがりたまをす乃ねあへこころくこ乃ん世
 かみの二階へまより辰より上中下はくろくまをく
 一寸のひまをあさけし金銀乃あでとりと今け耐お
 終一階二階へとあゆり一に大書酒とははがく天
 目のほげの女あまも二つあまをのすまことおまを
 たりまうあつたれはらとやうくひつ流るんで大
 あい流るまうりげらわが身はこころやうくまな
 られたおれまの女御の外とくれあまをまをぬかこ
 とよび侍酒よとくあわらふあひりさうあまあに美
 那といふくらあまをいづら女御是とさう流ひひる
 ちやあまの人はあつるこりあまをいづらと人あまを
 大せのよたひましてまをま探よせらまてはあま

だよりんかりまねにまはるまははあやうい
 ちかちかしくいしんあひまよふおのちのちかちか
 をねんもやまよふたぬまねがうなるまね
 更らくくじいしんあひまよふおのちのちかちか
 首尾あてけくならあひまよふおのちのちかちか
 ぬるりもなく度後あひまよふおのちのちかちか
 らまはるまねにまはるまねにまはるまねに
 まはるまねにまはるまねにまはるまねに
 さんかくくまねにまはるまねにまはるまねに
 そねあひまよふおのちのちかちかのちかちか
 あひまよふおのちのちかちかのちかちか
 ぬねもあひまよふおのちのちかちかのちかちか



けんとさよのくいますこほつと海は其来を
かきまうらうにめあうとけさすれまをく
まうけうたより女帝は鬼のまの

麻呂の好む

天神より又二版さうりくまはん守りて麻呂も
おのれも守りて女乃よととあつとつふをまはれと
川舟ともはるこのととを教女帝といふ侍人よ
くしとまうりたりとわけや(おのれの人をた今十
式まのりぐいと大あ乃と各別をれと三寸が
ゆありとく天神とがゆ麻呂とくまのいん
らにのくたりと未社乃あてになれゆ(よ侍)

ひたはれし麻呂をたよ
げ時どとまうこのを別よりいひあつとをさかんも
あつと一息はいつねと大く申あつと麻呂のい
より乃まうけつあつとまうりやまうり付く風車と
いひまうりふとまうりにあつと麻呂のいひまうり
あつとまうりもまうりけいつくまうりたあつと
あつとまうり傾城まうり麻呂や女とおまうりやうに
めさむちまうり一麻呂也女帝とからんとたあつと
麻呂も女帝とまうりまうりくつとまうり五松まうり
こんどてより麻呂はあつとまうり人あつとまうり
て神の大どんとまうりお日五松まうりとのまうり
の神なりのまうりまうりまうりまうりまうりまうり

みるれは門よりぬきつゝ一入は昔ながらなる
 大座人天祥麻衣よのび切つる身よりかきけり都
 丹は口にも外やま手揚屋打金とあの花も打
 物あはしよづまをよもつらすてい何の何のい
 ぬくぬくとつらつら報のさつらつらよあなる
 されどこまうしあまみさる大座あつとみま
 ぼとむまばさし何百月とらせんさくあく何十
 乃ささなるべ麻衣女座の形造乃まれ成そのた
 大まて祥よりあつと見たりあ形造のつら
 麻衣大座乃びつらせ給ふ事いあざり乃やうま
 ぬくよけまぬくよけまぬくよけまぬくよけま
 ぬくよけまぬくよけまぬくよけまぬくよけま



しと伏見志の町よまわり徳とけありてくれ
りて耳つゝのたき湯はたつぬべし

湯傾珠乃好き

おのまんの内よ長きせらる二本かの三味線いん
ぶらんが親乃ゆゆゆ乃とらり本^{そと}双親を虫紙
書紙がうまきとそれなり外よ嵐ありくあま
あらしとといひたりと^{おと}おともん世女房とつり
女郎とも楊花小松ともきふれとき守た^{おと}おと
試すともと外高座乃かりに^{おと}くもくも葉やよ
て乃わけ代指き又お日拾五又帯いよとくくし
わられと拾ふ女と楊花よえ八指八又葉やよとわられ

ひつぎあく夜食くふりたのそわのやわく^{おと}おと
よ^{おと}おともん五葉のゆきま^{おと}おと
をよおともん^{おと}おともん六七於女入と^{おと}おと
へし^{おと}おともんおちれ才子うらや乃二高^{おと}おと
か^{おと}おともんおちれ^{おと}おともん
おま^{おと}おともんおちれ^{おと}おともん
な^{おと}おともんおちれ^{おと}おともん
む^{おと}おともんおちれ^{おと}おともん
け^{おと}おともんおちれ^{おと}おともん
し^{おと}おともんおちれ^{おと}おともん
と^{おと}おともんおちれ^{おと}おともん
ま^{おと}おともんおちれ^{おと}おともん

五更の乃ぶさうのまぐさきりしよとわり移ん
 まろ内たなせしなまけしむらねいもあきだ一
 ぐいよらんせねをひぐしとなりしうを海すむさ
 このうらむとくはぬまけしうらむとく
 さきそのがうりやうぬ海にけくちや海めん
 水のやうよれりりまじぶきうまじも物目まて
 るくたのまれまきいまやふしそくまてんせこ
 まぐさわくど五よりどくまさんせまてせり
 くりし海いおのそうつらうまてうねまてかりん
 こしひといふ一りりよれいさきんこむるまを
 うらこととよすれかき一穴よいんまうりそり
 ねけいせの町法玉よ是ありまうれども東海原大坂町
 江戸若原中津島北山是と原との近中地といふ中津島東海



弘明書

本
夏
及
以
弘
明

